

【記 事】

## 愛宕臨床栄養研究会（ACNC）第78回学術研究会

日 時：平成25年11月15日午後5時50分-7時30分  
会 場：東京慈恵会医科大学西新橋校大学1号館5階講堂  
司 会：矢永勝彦（東京慈恵会医科大学外科学講座）

### 講演：「がんと栄養」について

名古屋市立大学消化器外科学  
竹山 廣光

多くの癌腫で体重減少が認められる。体重減少はQOLに相関し生存期間を短縮する。がんではエネルギー代謝異常をみられる。がん患者における体重減少は、がんに伴うものとがんが誘発する代謝異常がある。グルコースの代謝は大きく変化しており、①がん細胞ではグルコースから大量の乳酸を作っている。②がん細胞は酸素が無い状態

でもエネルギーを産生できる。③がん細胞は酸素が十分に存在する状態でも、酸素を使わない方法（嫌気性解糖系）でエネルギーを産生している。これをワールブルク効果（Warburg Effect）という。大量に作られた乳酸は肝で嫌氣的代謝（Coriサイクル）が亢進して多大なエネルギーを消費してグルコースを産生し（糖新生）、これをがんに供給している。がんは、無駄な糖新生、蛋白分解因子、脂質流動因子を促し特異なエネルギー代謝を誘導する。この代謝変化に有効な栄養治療は重要な研究課題であり、がん治療の新たな一矢になりうる。